

平成 27 年度第 1 回一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録

- 1 会議名 平成 27 年度第 1 回一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議
- 2 開催日時 平成 27 年 6 月 24 日（水） 14 時～16 時 15 分
- 3 開催場所 一関市役所 議会棟議員全員協議会室
- 4 出席者

【一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員】

秋山真紀子委員、伊藤龍治委員、小野寺真澄委員、河合純子委員、佐々木吉幸委員、佐藤馨委員、佐藤進委員、柴田尚志委員、鈴木里美委員、滝上亜寿香委員、千葉実委員、野村勉委員、藤田勝敏委員、渡邊美紀子委員

（欠席委員）

熊谷由美子委員、佐藤善子委員、千葉幸則委員

【市側出席者】

勝部市長（途中退席）、佐藤市長公室長、千葉政策企画課長、藤島政策企画課主幹、佐藤政策企画課長補佐

5 議 題

- （1） 座長及び副座長の互選について
- （2） まち・ひと・しごと創生法及び国の長期ビジョン・総合戦略の全体像について
- （3） 一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定方針について
- （4） 会議の全体スケジュールについて
- （5） 当市の人口の現状と将来推計について

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者の数 報道 4 社

8 会議の内容

【委嘱状交付】

出席委員 14 名に対し、市長から委嘱状を交付した。

【委員紹介】

司会から委員の紹介を行った。

【市長挨拶】

- なぜ、今まち・ひと・しごと創生が大きく話題になっているかというと、今の人口減少社会は我々が思っている以上にスピードが速く、このまま何もしないでいると大変なことになることが容易に想像できるということだと思う。
- 今回の地方創生は、今までとは国のやる気が違うと感じられるが、それ以上に、今の日本は、

既に人口減少社会に入り、国民の半分近くが高齢者になるいびつな社会が目の前に迫ってきている中で、対策を考えなければならない状況に置かれている。

- 有識者会議の設置要綱に「人口減少、少子高齢化等の社会構造の変化を見据えて」という一文があるが、今までは少子高齢化を安易に受け止めてきた感じがある。少子化と高齢化の問題だけではなく生産年齢人口も減っており、ここが最も経済に与える影響が出てくる部分である。
少子化も、今手を打たないと、これから生まれる子どもが労働力となるのは20年後である。
- 高齢者も、高齢化率という数字が出てくるが、パーセントで捉えると有効な対策が打てなくなると危惧している。高齢者が病院に通う、入院する、あるいは介護施設に入るといったときに入所待機者が何人いるか、キャパシティがどうかということは実数で見なければならぬ。
- 少子化、現役の労働力及び高齢者の3つの問題について、それぞれ別個の対策を同時進行でやらなければならない難しさがああり、相当気を引き締めて向かっていかなければならないと思う。
- 一関ならではのアイデアを出して、一関だからこそできるというものを打ち出していかなければならない。また、一関市という一つの自治体だけではなくて、一つのエリアで対処していくため、宮城県との県境を意識しないで栗原市、登米市と一緒にやっていこうということで、定期的に話し合いをしている。
- 他の自治体を見て、それを真似しようということは全く頭に入れずに、一関の置かれている状況の中で一関として何ができるのか、どこと一緒にやってどういうことができるのかということを考えていただき、忌憚のないご意見をいただければと思う。
- 一関が主役で、一関が舞台になって展開される少子化、労働力維持、そして高齢者対策。これをしっかりと組み立てていければと思っており、皆様には活発な議論をいただくことをお願いしたい。

【協議】

- (1) 座長及び副座長の互選について
座長に千葉実委員、副座長に河合純子委員を選出した。
- (2) まち・ひと・しごと創生法及び国の長期ビジョン・総合戦略の全体像について
政策企画課長：資料No.1により説明（質疑なし）
- (3) 一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定方針について
- (4) 会議の全体スケジュールについて
政策企画課長：資料No.2、資料No.3により説明

(質疑)

委員：議会への報告や意見を聞く機会についてどのように予定しているか。

市：報告、説明の機会を10月頃に設ける予定としている。

委員：市民との意見交換の場をどのように予定しているか。

市：まちづくりスタッフ会議や高校生ワークショップのほか、タウンミーティングなどあらゆる場面でご意見をいただくこととしている。

(5) 当市の人口の現状と将来推計について

政策企画課主幹：資料No.4、資料No.5により説明

(質疑)

委員：他市町村でも定住人口を増やして出生率を上げるということであれば、都市間の競争になると考えるが、近隣市町村でも同様の取り組みを行っているということではあるか。

市：総合戦略は各県、各市町村で策定することとされており、同様に取り組みを進めていると承知している。地域の特色を出して進めていかなければならないと考えている。

委員：若い人の意見はどこでどのように聴取するのか。また、進学や就職で一関を離れることがあるが、その人数の把握や、戻ってきたいというニーズはどのように把握するのか。

市：まち・ひと・しごとを語る会を2回開催したほか、将来のまちづくりについての高校生ワークショップを開催している。また、昨年度、総合計画の策定にあたって中学生、高校生を対象としたアンケートを実施しており、今回実施するアンケートでも、若い方のニーズなどの把握などに努めたいと考えている。

【委員意見】

- 高卒者の流出が問題となっている。雇用の場を作ることも大事だが、地域にどんな会社があるか、良い企業があっても、高校生もその親も先生も知らずに、外に出てしまうということがあり、出てしまおうとなかなか戻ってこない、ということがある。そのような視点でも見ていただければと思う。
- まち・ひと・しごとを語る会に参加したが、市民の方からのストレートな意見が聞けて参考になったが、参加者に若い方が少なかった。上の年代と若い方とのギャップもあるので、若い方の意見は大事にしていきたいと思う。母親として、子どもがきちんと育つ環境や、高卒で流出して戻ってくるIターン、Uターンを重視するという点について、企業の立場としてもよろしくお願ひしたい。
- 金ケ崎町、北上市を中心に製造業の労働人口が集中しているが、流通も北上市を中心に集積しており、就業の場を設ければ人が集まるという考えで整備してきたと思う。一関にとっても、長期的に外の学校に行く人を一人でも抑えれば人口減少は減り、就労の場があれば市が栄えると思う。長期展望として学校、企業の誘致をどう考えているかを、若い人にアピールしていくことも必要だと思う。
- 栗原市、平泉町とは連携していくということだが、奥州市、北上市、盛岡市、仙台市などとは競争していかなければならないと思う。
商工会議所の商業部会の地域振興委員会で、里山を復活させて、営農を手伝って都会から来てもらうという話があったと思う。また、過去には4年制大学の誘致という話もあったと思う。
- 会社で採用を担当している。高校、高専から採用したが、地元のために貢献したいという子が非常に多く、今後のヒントになるかと思う。

- 15歳人口の減少は非常に厳しい。一高が定員割れし、高専も志願倍率も落ちたが、市内からの志願者が極端に減っている。人口減少のカーブ以上に現実には進んでいると思う。
少子化、高齢化に対して決定打はないだろうと思う。オンリーワンのものが出ればいいが、なかなか難しいと思う。色々な分野を見直して、もっと住みやすくなるようにするという方向がいいのではないかと思う。
- 一度外に出て、長男、長女だから帰ってくるという人もいるが、魅力があるから帰ってきたような地元をしたい。生活するうえでの利便性を考えながら、若い人が残れるような地元づくりを目指していければと思う。
また、子育てをサポートできるような場所をたくさん作ってもらえれば子どもを育てるうえで便利なのでよろしくお願ひしたい。
- 宮城県岩沼市は子育てサークルが盛んで、市の補助で専属の保育士がサークルも回って遊びの場を提供してくれるので、就園前の子どものほとんどはサークルに入っている。子育てしやすい環境を作っていると感じた。
結婚して新居を構えるタイミングで、子育てしやすい都市として選んでもらう方法もあるのかと思う。
- 危機感を感じている。特効薬はないが、オンリーワンは何か、ということを考えなければならぬ。
若い人を定着させるには仕事、少子化に対しては女性にあらゆるフォローをしなければならない。また、高齢者が悪いような感じになっているが、そうではなく、高齢者が住みよいまちづくりという視点が大事ではないか。また、このまちで死にたいと思えるようなことも大切な時代になるのかと思う。
- 得てしてこのような会議の場は不満のはけ口になるので、そうならないようにしたい。
ある程度進むべき方向を挙げて、きちんと時間をかけるべきこととスピード感をもってやること、地域間で競争することと協力してやること、そういった理想と現実を分けて考えないと、総花的になって議論の自己満足で終わってしまうパターンをよく見ている。
進むべき方向の全体像は行政が作って、各委員の得意分野で意見を出し合って理想の形を作っていくほうが上手くいくと思う。
- 一関市で人口減少対策に真剣に取り組んでいることをもっと打ち出してはどうか。新聞や広報を見ない方にもラジオで呼びかける方法もある。
- 総合戦略は具体的に、いつ誰が何をやる、というところまで作るべき。また、全体に目を向けるとしても、社会減か自然減か、どの年代か、男性か女性かというターゲット設定も必要である。
人口減少対策はこれまでもやってきており、新しいアイデアというより、これまでの対策の実効性を高めていくかが大事だと思う。
人口ビジョンは目標値であるが、対応する施策がなければビジョンを変える必要が出てくるので、総合戦略から人口ビジョンを考えるなど、トータルで策定する必要がある。

9 担当課
市長公室政策企画課